

環境メルマ “Brownfields”

ドライクリーニングサイト in JAPAN!

- 1) ドライクリーニングの歴史
- 2) 時代を先取り！日本のサクセスストーリー
- 3) ドライクリーニング施設数と使用溶剤の変遷
- 4) 環境メルマ バックナンバー全面リリース

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。

6月4日にお送りした「米国のドライクリーニングサイト浄化修復のための州連合会（SCRD: State Coalition for Remediation of Drycleaners）」は如何でしたか。前回からちょっと時間が空いてしまっておめんなさい。

さて6月5日と6日に京都大学で「地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会」が開催されました。この研究集会で、私は「ドライクリーニング溶剤による土壌・地下水汚染に対する、制度を利用した対策・管理および未然防止について」というお題で発表させていただきました。ポスターセッションでは予想以上の方々にお集まり頂き、意見交換もできて、「頑張ってくださいね」とエールを頂いたときは胸がいっぱいになりました。本当にありがとうございます！という気持ちを込めて、今週のメルマでは、その発表内容にプラスαで日本のドライクリーニング関連のお話をしたいと思います。

1) ドライクリーニングの歴史

日本でドライクリーニングサービス業が始まったのは1907年（明治40年）。その歴史は昨年ではちょうど100年を迎えています。これまでドライクリーニングサービスは日本の公衆衛生に大きく貢献してきました。その一方で皆さんご存じの通りドライクリーニング溶剤による環境問題が発生したという事実もあります。

ここで歴史をざっとまとめて見てみましょう。

- 1907年 ドライクリーニングサービス開始
- 1950年 クリーニング業法制定
- 1953年代 テトラクロロエチレン用洗濯機出回る
- 1960年代 小型石油ドライ機・テトラクロロエチレン機が全国普及
- 1971年 水質汚濁防止法施行
- 1977年 クリーニング業者10万件突破。取次店全盛時代
- 1984年 「ドライクリーニングにおけるテトラクロロエチレン等の使用管理に係る暫定的措置等について」厚生省から通知
- 1989年「クリーニング営業者に係るテトラクロロエチレンの環境汚染防止措置に関する技術上の指針」通産省から告示
- 水質汚濁防止法改正
- 2003年 土壌汚染対策法施行
- 2006年 ドライクリーニング百周年
- 東京都 VOC 対策ガイド（5章ドライクリーニング）発行

米国では

- 1994年 フロリダ州で米国初のドライクリーニングに特化した浄化プログラムを設置
 - 1998年 ドライクリーニングサイト浄化修復のための州連合会（SCRD）設立
 - 2002年 小規模企業の浄化責任免除およびブラウンフィールド再活性化法施行
- という歴史がありましたね。

2) 時代を先取り！日本のサクセス ストーリー

米国と日本の歴史を比較すると「そうか、やっぱり米国では中小・零細企業の土壌（土地）・地下水汚染対策とその支援策がすすんでいるな。日本はこれからか〜。」とってしまいます。確かにそういう側面がある一方、実は日本には時代を先取りした見事なサクセス ストーリーがあります。それは名水「弘法の清水」の復活をかけて取り組んだ秦野市の浄化事例。以下のウェブサイトには、写真入りでとても読みやすいコラムが掲載されています。是非ご覧になってみてください！

http://www.cleansui-club.co.jp/web/vol19/01/index_03.html

秦野市では、1995年5月に簡易浄化システムを制作し、事業者に無料貸出しています。同市のプロジェクトでは先進的技術を使用したわけではなく、費用削減を実現するため、市の職員らが地域固有の地質に適切な調査・浄化対策手法、そして簡易浄化装置を開発したのです。そして市の職員が現場で汗を流し、クリーニング業者とお茶を飲みながらコミュニケーションとすることで、行政と事業者の「信頼感」と「連帯感」が築かれていったそうです。このように、自治体が問題を明確にして、自主的に解決策を考案していく姿勢と行動力は民官パートナーシップを築くうえでとても大切なことだと思います。

この他、東京都の取り組みも見逃せません。過日の環境新聞に掲載された西東京市の「中小企業対策」もキラッと光るものがあります。環境メルマはこの西東京市の取り組みを次号でご紹介する予定です。自治体のやる気！どんどん広がっていけばいいですね。工夫は無限にあるのかもしれない！

3) ドライクリーニング施設数と使用溶剤の変遷

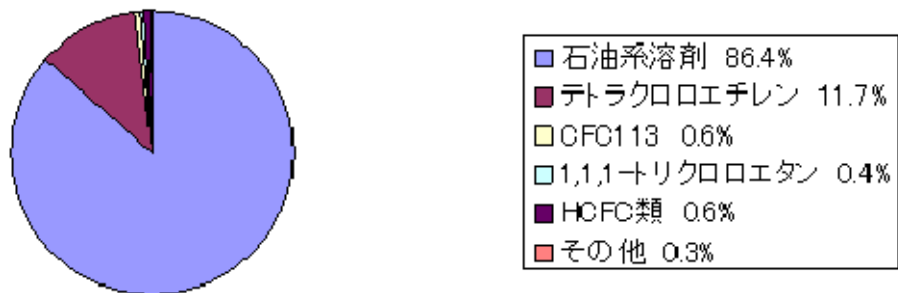
さて、日本のドライクリーニング屋さんってどれくらいあるかご存じですか？1989年には52,980施設、2004年には36,439施設ある（あった）との報告があります（参考：全国クリーニング生活衛生同業組合連合会のウェブサイト）。ここ十数年でドライクリーニング屋さんは徐々に減ってきているのですね。現在米国には30,000件程度のドライクリーニング屋さんがあると見積もられています。日本の国土の約25倍の広さをもつ米国に、同じオーダーのクリーニング屋さんがあるのですから、日本のドライクリーニング屋さんの密度は米国と比較すると桁違いに高いことが分かります。

ドライクリーニング溶剤といっても色々ありますが、土壌・地下水汚染で気になるテトラクロロエチレンを使用している施設数はどれくらいあるのでしょうか。下のようなグラフを作ってみました。

1989年 ドライ溶剤使用施設数



2004年 ドライ溶剤使用施設数



日本では石油系溶剤の使用が主流で、1989年にテトラクロロエチレンを使用している施設は全体の20%もないことがわかります。2004年にはおよそ10%強。今後はテトラクロロエチレンの使用はなくなるのでしょうか。1989年（平成元年）以前の事情はわかりません。このあたりの情報が定量的にわかると、土壌調査等で活用できる可能性があると思います。ご存じの方は是非ご連絡ください。

4) 環境メルマ バックナンバー全面リリース

ここでちょっとお知らせです。

2005年7月にやってきたヒラメキから始まった環境メルマ“Brownfields”。

皆さんに支えられて、これまで80篇以上をお送りしつづけてきました。

何かの折にちょっとみたい！そんなご要望にお応えして、このたび全面リリースいたしました。

http://www.ers-co.co.jp/topics/bf_mail.html

どうぞお使いくださ～い。

では今週はこのへんで。

よいご週末をお過ごし下さい。

Thanks God It's Friday!

Thanks God It's Brownfield!!

佐藤 (tsato@ers-co.jp)